

社会福祉法人グリーンローズ

「ことば」の教室
オリブ園
インクル

ばら通信おそくなりました！

新年度を迎えて 新職員の紹介
新型コロナウイルスについて！



新学期を迎えて オリブ園 園長 佐々木明美

令和2年度は、新型コロナウイルスへの対応で始まりました。緊急のお知らせは、「4」までで今の所は止まっていますが、これまでのウィルス感染の歴史的経験から、収束まで第2波、第3波は必ずくると言われています。今が第2波でしょうか？秋田県は、現在、警戒レベル2。できることなら、緊急事態宣言が発動されないことを願うばかりです。

オリブ園は、発症者が出れば休園ということになりますので、それも視野に入れながら新型コロナウイルス感染症対策委員会を立ち上げました。これまで、3回行いました。「必要以上に恐れることはなく、正しく恐れましょう。」ということばを聞いても、経験ないことに対して、やはり心は穏やかではなく、不安もいつも心のどこかにあります。幸いにして、オリブ園子ども発達クリニックが併設されていますので、心配や疑問があればいつでも後藤良治先生に相談にのっていただき、より適切な方法を考えることができます。その心強さは、私たちにとって、日々の生活を少しでも平常心で過ごすことに大きな力となっています。

しばらくは、行事も含めて例年通りの支援とは違った形にならざるを得ないと思っております。それでも、お子さまが笑顔で元気に過ごせるように、ご家族の方ができるだけ安心して子育てができるようにという基本の理念はしっかり提供できるようにしていきたいと考えております。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

こばやし たかぶみ

小林 宇文先生

新任職員紹介

たかはし あやこ

高橋 綾子先生



初めまして。

小林宇文と申します。
54歳の新人です。
3月までは支援学校
等で教員をしており

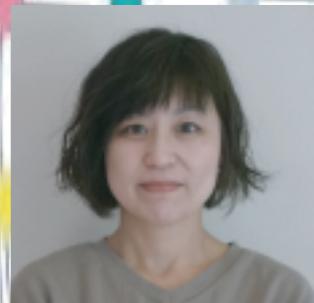
ました。

聴覚支援学校で10年間進路指導を担当した経験を生かして成人の方々の支援に携わりたい、また、音声でも手話でも安心して相談できる相談員になりたいと考え、4月から子ども発達相談支援センターグリーンローズでお世話になっています。

現在、相談員の仕事を覚えようと勉強中ですが、日々、オリブ園に通園してくる子ども達の可愛らしさにメロメロになっています。

子ども達もやがて成人します。こちらの相談支援では、かつてオリブ園に通園していた成人の方々の支援計画立案等も行っています。成人しても親亡き後も地域で安心して暮らせるよう、携わることやご家族の皆様へ寄り添い、必要なことをするためやしたいことができるための手だてについて一緒に考えていきたいと思っております。

よろしくお願い致します。



今年の1月から
オリブ園で勤務
させて頂いております
作業療法士の
高橋綾子と申します。

私は生まれも育ちも
秋田で、県内の作業

療法士の養成校を卒業後、秋田市内のリハビリ専門病院に勤務し、そこで外来の小児作業療法を7年間程経験致しました。そして結婚、出産を経て、しばらくは休業し、その後、再就職したのは介護施設でした。

発達支援に関わるのは15年ぶり、体力も思考もブランクを日々感じ、作業療法士としての役割に力不足を痛感し、もう10歳若ければ・・・と思う毎日です。

子どもにとって「遊び」は発達のための栄養であると考えます。作業療法という視点から子どもたちが健やかに生きてくうえで、その栄養をたくさん吸収できるように、様々な遊びを経験できるようお手伝いをしていきたいと思っております。

どうぞこれからよろしくお願ひいたします。

裏面もありますよ！

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ <http://www.olive.kodomo-sekai.jp>

新型コロナウイルス感染症拡大について

グリーンローズ理事長 後藤 進

昨年、12月中国の武漢市から発生したとされる新型コロナウイルスは、瞬く間に全世界に拡大し、多くの感染者と死亡者を生み出しました。これほどグローバル化した世界に拡大するのは当然のように思われます。しかし、このウイルスは全人類が出会ったことのないウイルスだということは間違いなさそうです。世界中が感染したということがそのことを表していると思われます。

人間の世界は、地球上のあらゆるものを支配下におこうとしてきました。多分世界の人口があまりに増えたために、そのようにせざるをえなかったのではと思われます。歴史上、大きな動物や植物を駆逐したり管理のもとにおくように地球を改変してきたと言って過言ではないと思います。しかし、歴史上の数々の疫病の歴史を見ると、疫病という目に見えないものによる厄災は、科学や医学の発展を待たなければ理解できないものの一つでした。地球のあちこちで、人間とこのような目に見えないものとの出会いは、多くの犠牲者を出しながらも、なお人間は繁栄を続けてきました。

科学と医学の進歩の中で、目に見えないものを見ることが出来るようになり、細菌を見つけたのが300年程前でそれが感染する病気の細菌として次々に発見されていくのは、150年程前からのことです。細菌をこし器にかけ、細菌のいなくなった中にさらに感染する何者かがいることが分かったのは130年前くらいです。それがウイルスです。

医学の進歩は、原因が分かるにつれて、治療についても飛躍的な発展をもたらしました。抗生物質の発見は、細菌との闘いで大きな役割を果たしました。しかし、使い過ぎによりこれらに強い細菌が生き残るといった耐性菌の問題が浮上してきました。ウイルスについては、ワクチンが開発され、ウイルスによる多くの病気に対応してきました。しかし、変異しやすいウイルスもあり、なお今回の新型コロナのようにパンデミックを起こしうる世界であることは間違いありません。今回、世界的に見るとアジア諸国の感染率や死亡率が低い特徴がありますが、原因はまだ分かっていません。今後の研究への期待とともに、感染拡大に対応する治療薬やワクチンの開発が待たれます。

ただ、今回の新型コロナ拡大の中で、今まで見えなかった多くのものが見えたことも確かです。世界中が同時期にこの新型コロナウイルスに襲われたことは、感染者数や死者数の多い少ない(原因がいまだ十分には分かっていない)では語り得ないものがあると思っています。社会に向き合う各国の指導者の態度や、その国の対応の中身など、多くが曝け出されました。生活の様式も多くの変化をもたらしました。それが、コロナ後の世界にどのように活かされていくのかが問われています。ある意味で、国家の指導部も、庶民も同じ地平に立たされたのです。今までは別世界に住むと思われた人を同じ次元で見ることが出来たのです。今後、多くの苦難が待ち受けていると思います。その時、同じコロナに襲われたのに、コロナを広げないように皆努力したのに、ある人は豊かに、ある人は苦難をまともに受けるという現実がやってくるのは間違いありません。このことがなぜなのかを考え、新しい世界を作っていくことが求められると思っています。それはどんな世界なのかは、今は誰も分かりません。

ペストのために多くの方々が亡くなった世界で、果敢に立ち向かったイタリアやドイツは新しいルネッサンスの時代を作り出しました。私たちはある意味、この新型コロナに果敢に立ち向かっているのではないのでしょうか。国の指導者や行政にまかせっきりでなく、見えないウイルスの存在を確認し、向き合っているのではないのでしょうか。

「これからの人よ、若者たちよ、子どもたちよ、そしてすべての人よ。あなたたち自身で、新しい世界を、この地球のありようを、模索できるような社会を」、そのように新型コロナが訴えているように思えてなりません。

新型コロナ感染拡大において、様々な助言や示唆を、クリニックから受けました。

支援等での注意点や、子どもさんの状態などについても多くの助言を受け活かすことが出来ました。



オリブ園 こども発達クリニック



☎ 018-838-1720
☎ 予約が便利です。

何かありましたら いつでも 誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com
ホームページ <http://www.olive.kodomo-sekai.jp>